

本年度で連載4年目ですが、9月の記事には思い入れがあり、過去3年「いじめ」をテーマに記事を書いていきます。



1年目は「守るべきルール 誰一人傷つけず、幸せにすること」というタイトルで、吉本新喜劇のいじりのルールを語りながら、「信頼関係があつたとしても面白半分て誰かをいじるのは決して許され

◎ おもい



ないこと」、2年目は「沖縄で得た原点 いじり封印『ゆんたく』の楽しさ」というタイトルで、いつも笑顔で島の人気者のお医者さんが笑顔になるだけで、島の人がちがうらわらわら思わす笑顔になったエピソードから「容姿やキャラクターをいじり、誰かをとおとして笑いをとることよりも誰も犠牲にせずみんなで笑いあえることの方がすてきな時間になること」を書きました。

私自身もいじめられた経験があります。そして、一番つらかったのが長期休暇明けの9月。「心配をかけてはいけない」と親には相談できませんでした。しかし、誰かに「気づいてほしい」「助けてもらいたい」と常に思っていました。だから、9月の記事は、いじめられている側はもちろん、いじめている側、さらには、それに気づきながら何もできずにいる人など、「とにかく誰かに届け！」と

いう思いを込めて発信しています。そして、昨年は「大人が示す手本 失敗を『恥ずかしい』と思わない子に」というタイトルで、やる気がなく誰も歌わなかった音楽発表会を何とかしたいという一心で一生懸命歌ったにもかかわらず



全ての人が安心できる人間関係を

嘲笑されたエピソードから、「なにも挑戦していない人間が一生懸命にやっている人間を笑うな！」と熱く書かせていただきました。するとその記事が、私の母校である京都教育大学の入試問題に採用され、「失敗しても恥ずかしいと思わない子どもたちが育つような授業にするために重要なことについて考えてみてください」という小論文の問いと共に引用されました。他にも滋賀県の中学校の学

校便りでも引用されると聞きました。私が願う「誰かに届け！」が届くだけでなく、さらに誰かに広がっていることに感謝しています。どんなに素晴らしい取り組みでも誰かが傷ついた時点で全てが台無しになります。傷ついていると周りの人も悲しくなります。特に親は子どもが傷ついているととても苦しくなります。遊びながら学ぶエデュテイメントで最も大切なことは、笑わせるでもなく、楽しませるでもなく、学ばせるでもなく、安心できる空間をつくること。「誰一人傷つけない」これは育児や教育だけでなく、全ての人の関わりで大切にしていきたいこと。全ての人が安心できる人間関係の輪がどんどん広がることを願いながら、これからも言葉に魂をのせて発信していきたいです。